



編集・作成 三重県
作成 / 令和7年3月

令和6年度 HAPPY☆CYCLE プロジェクト

—— 活動の軌跡 ——



- ☆ 女性リーダーと働く女性の交流会
「MEET! ロールモデル」
- ☆ 女性活躍推進アドバイザー派遣
- ☆ 企業等トップ層向けワークショップ
「変革はトップから! 明日からできる実践塾 ～女性も男性も活躍できる職場づくり～」
- ☆ トップの熱い思いの本気宣言
- ☆ ジェンダーギャップ解消フォーラム
「Well-beingな職場づくりのススメ」

HAPPY☆CYCLE とは、ジェンダーギャップを解消し、女性も男性も働きやすく活躍できる職場環境づくりに向け、「意識・制度・慣行」が変わることで、個人・企業・社会の成長へとつながる「HAPPYな好循環」をめざして、令和6年度から新たにプロジェクト名となりました。「男性だから」「女性だから」といった性別による役割分担にとらわれず、誰もが家庭でも仕事でも活躍できる「令和モデル」の社会・職場環境づくりに向けて、「HAPPY☆CYCLE プロジェクト」を進めています。

MEET！ロールモデル

「管理職として活躍している女性の経験談を聞いて、自身のキャリアの参考にしたい」といった声をうけ、働く女性のキャリアの継続や今後のキャリアパスの参考となるよう、活躍する女性リーダー（ロールモデル）と若手・中堅女性の交流会を行いました。

ロールモデルの挫折や苦勞、ライフイベントをどう乗り越えたか等の体験談の後、ロールモデルと参加者の意見交換を行いました。



開催日 令和6年9月2日(月)

登壇者 株式会社三交イン 代表取締役社長 村田 陽子さん

場 所 三重県職員研修センター
※一部オンライン配信あり

日本土木工業株式会社 専務取締役 垣本 美和さん

株式会社百五銀行 県庁支店長 柳澤 智子さん

三重テレビ放送株式会社 広報宣伝部長 深田 和恵さん



女性活躍推進アドバイザー派遣

企業・団体に女性活躍推進アドバイザーを派遣し、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）に基づく一般事業主行動計画の策定・届出を支援しました。

令和6年度 策定企業・団体数 **20社**



企業等トップ層向けワークショップ

「変革はトップから！明日からできる実践塾～女性も男性も活躍できる職場づくり～」

誰もが家庭でも仕事でも活躍できる「令和モデル」の職場環境づくりのため、企業等のトップ層を対象にワークショップを開催しました。ワークショップでは、講師による講義、企業の事例紹介、参加者同士の意見交換等を行い、のべ40社42名の方にご参加いただきました。

講 師 社会保険労務士 「ジェンダーギャップ解消」が職場のミライをつくる！
高原 祥子さん ～多様な人材が活躍できる職場は生産性が高く、かつ人が集まる！～

会 場	開催日	開催場所	企業事例紹介
北勢会場	令和6年9月10日(火)	いなべ市商工会	株式会社フジ技研 常務取締役 鏡谷 有紀さん
南勢会場	令和6年9月24日(火)	志摩市商工会	株式会社志摩地中海村 代表取締役社長 大西 晶さん
津 会 場	令和6年10月16日(水)	三重県総合文化センター 大会議室	北伊勢上野信用金庫 人事部調査役 原 かおりさん



トップの熱い思いの本気宣言

「令和モデル」社会の実現に向け、企業・団体・自治体のトップが、「熱い思い」をもって本気で取り組んでいるということを見える化、発信するため、「トップの熱い思いの本気宣言」（通称「熱本気（アツマジ）宣言」）を募集しました。

これは、「令和モデル」の社会・職場環境づくりに向けて、キーワードとなる「意識・慣行・制度」の3つに加え、特に注力したい独自の内容について、「本気で取り組んでいる」というトップの熱い思いを、ポスター風の「宣言書」にさせていただくというものです。

令和6年10月より募集を開始し、令和7年2月14日時点で、三重県知事を含む、計55人のトップにご参画いただきました。



三重県知事の「熱本気宣言」

ジェンダーギャップ解消フォーラム

従業員への幸福感

Well-beingな職場づくりのススメ

開催日 令和7年2月14日(金)

場所 三重県総合文化センター内
男女共同参画センター多目的ホール
※オンライン配信あり共同代表 伊藤印刷株式会社
代表取締役専務 伊藤 恵子
株式会社三十三銀行
特別顧問 種橋 潤治

主催者挨拶

伊藤代表より、女性が活躍できる環境となるよう、会員企業・団体の輪が広がっている事への御礼を申し上げます。
次に種橋代表より、各種事業への参画の御礼と共に、「男性だから」「女性だから」といった意識にとらわれず、誰もが活躍できる三重を目指し、今後10年、更にその次の10年を見据えて、歩みを止めずに活動を続けていきたい旨申し上げます。



トップの熱い思いの本気宣言動画上映

トップの熱い思いの本気宣言。
通称「熱本気(アツマジ)宣言!!」

「男性は仕事、女性は家庭」の「昭和モデル」から、誰もが家庭でも仕事でも活躍できる「令和モデル」の社会・職場環境づくりに向けて、企業・団体・自治体のトップの「熱い思い(本気)」をポスター風の宣言書にして「見える化」し、動画にして紹介しました。



◀熱本気宣言の動画の閲覧はこちら
(YouTube)

企業の先進取組紹介

株式会社四日市事務機センター

代表取締役 佐野 智成さん

「事務機のプロ集団が働く、Well-Beingな職場をご紹介します」

「社員とその家族を大切に、働きやすい環境を作ること、顧客満足度も上げることができる」と考え、先進的な取組を行っている全国の企業を訪問し、福利厚生制度などを積極的に取り入れたことや、ITを活用したオフィス環境の改善やリモートワークなど、柔軟な働き方の推進により、子育て中・介護中の社員も活躍できる環境になった事例などをご紹介します。結果として売り上げの向上にもつながったとお話いただきました。



最後に、「まずは、従業員の未来を笑顔にすることから始めた。そして、ITを使って働き方を変えれば、進学や就職で三重県から転出した人が戻ってくる可能性がある。人口が増えれば、地域の経済も安定する、未来を笑顔にすることができる」と力強くお話いただきました。



株式会社フジ技研

取締役常務 鏡谷 有紀さん

「誰もが活躍できる働きやすい会社」

「人を財産」と捉え、女性をはじめとして、シニア、外国人、障がい者など、多様な人材が活躍できる職場環境づくりに向け、社内規則の見直しや業務のマニュアル化、「工場らしくない工場」として社員が働きやすい環境づくり、社内外の講師による120以上の研修プログラム、「子連れ出勤」制度などの取組について、苦労した点や工夫したこと、成果などを、実例をもとにご紹介いただきました。

また、モノづくりの魅力を地域の人や子ども達に伝える活動についてもご紹介いただきました。

最後に、「企業が欲しがらる人にこだわらず、多様性を受け入れて、『人財』に育てること、その結果、誰もが働きやすい会社になる」とお話しいただきました。

講義

「ジェンダーギャップ解消が地方を変える!」

■講師紹介

田代 達生さん

カンダまちおこし株式会社(十六FGまちづくり会社)社長|NPO法人ORGAN監事|岐阜県白川村 公民連携アドバイザー 中津川市観光局CFOなどを兼任。
1999年十六銀行入行、営業店勤務やシンクタンク研究員を経て、2022年より現職。
2022年提言書『「女子」に選ばれる地方』発刊。

まず三重県の現状について、若年層の女性の転出が男性より多く、その結果、女性より男性の方が多い状態であること、女性が少ない地方は人口再生産が行えず、いずれ滅びるということであり、危機感をもたなければならないとお話がありました。

次に、ジェンダーギャップの課題で重要なことは、目に見えない、人々の「価値観」の部分であること、まずは男性の意識変容が大事であり、「女性の社会進出よりも男性の家庭進出がジェンダーギャップ解消の第一歩」というお話がありました。そのうえで、ジェンダーギャップ解消を阻む問題、具体的な解決策について、他地域の事例などを踏まえたお話がありました。

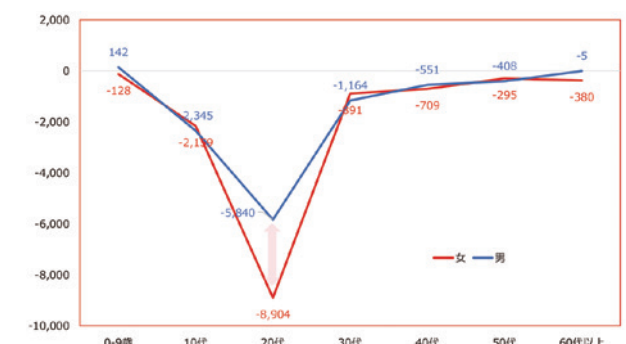


最後に、「女性や女性管理職が特に少ない業種や、男女の賃金格差が大きい業種もあるが、その中でも様々な取組や工夫をし、成果をあげている企業もたくさんある。視点を変えて、『なぜできていないのか』に切り込んでいく必要がある」とのお話がありました。

■三重県の人口動態

三重県から全国への
男女別・年齢別の転出超過数
(2019年1月～2023年12月の合計(5年間))

出所：総務省「住民基本台帳人口移動報告」



20代の女性が都市に
引き付けられる

パネルトーク 私たちが考える「自分らしく働ける職場とは」

コーディネーター



萩原 なつ子さん

■コーディネーター紹介

独立行政法人国立女性教育会館 理事長
男女共同参画について全国で講演をされている
ほか、東京都豊島区、山梨県をはじめ、数々の自治
体でジェンダーギャップ解消に関する政策提言に
携わる。

コメンテーター



三重県知事
一見 勝之

パネリスト



カンダまちおこし株式会社
代表取締役社長 田代 達生さん



三重大学
人文学部4年 平井 雅大さん
和歌山県出身



働く女性のネットワーク三重
代表 加藤 果林さん
県内で働く女性達が、業種などの垣根を越え
て学び合い、高め合うコミュニティ「働く女性
のネットワーク三重」で代表をしています。



三重大学
人文学部4年 中川 悠さん
三重県出身



三重テレビ放送株式会社
広報宣伝部長 深田 和恵さん
会社の中で、約25年ぶりの女性部長になりま
した。なったからには、やりたいことやろう！と
思っています。

自分らしく働ける職場とは



田代さん

経営層の方には、無理に女性活躍
や働きやすい職場づくりに取り
組むのではなく、会社の差別化戦
略として取り組む方が、理にか
なっていると考えることで取組
を進めやすくなると思います。



平井さん

自分たち若い世代はサービス残
業など、人件費を適正に払ってい
ない会社では働きたくないと思
います。そういった会社があると
するなら、改善されることで働き
やすい職場になると思います。



中川さん

人間だれしも不変ではなく、出産
などライフステージの変化によっ
て仕事への熱量など変わりゆく
ので、選択肢のある、可能性がたく
さんある職場で働きたいです。



加藤さん

企業が各個人の個性やバック
ボーンなどを受け入れてくれ
る環境が、自分らしく働ける会
社だと思います。



深田さん

自分自身も、若い方達から新し
い刺激を受けて、気づきを得て、
働き方も変わってきました。
「言いたいことが言えて」、「お金
がもらえて」、「休みもあり」、「プ
ライベートが充実する」。
そんな職場が、そんな三重県が
素敵だなと思います。

コーディネーターの萩原さんと三重県知事のコメント



三重県知事
一見 勝之

三重県はまだまだ伸びしろが
あります。変えられる、変わら
なければいけないと思います。
選択肢を増やし、皆さんが望む
働き方で働くことができるよ
う、取組を進めていきます。



コーディネーター
萩原さん

それぞれの人にフィットする
働き方、それができるような環
境を、働きやすさと働きがい
をどう作っていくのか、皆さ
んと一緒に協働して作ってい
くことが大事と感じました。



ジェンダーギャップ
解消フォーラムの
動画の閲覧はこちら
(YouTube)



女性の大活躍推進三重県会議からのお知らせ

女性の大活躍推進三重県会議 企画委員会の藤森委員長（株式会社中田商事）より、女性の
大活躍推進三重県会議について、これまでの取組の成果や今後の課題、時代の変化など
をふまえ、令和7年4月より新名称に変更することを発表しました。
その後、共同代表より新名称の発表があり、「女性が活躍できる社会にしたい」という
発足当時の想いと、これまでの取組で培ってきた県内企業とのネットワークを引き続き
大切に、取組を進めていくとの決意が伝えられました。



藤森委員長
(株式会社中田商事)

新名称「輝くみえのミライ★三重県会議」

(令和7年4月より)